

## ◆ごあいさつ◆



山形県立寒河江工業高等学校 校長 菅原 和明

本日はお忙しいところ、創立念式典並びに祝賀会にご出席いただきありがとうございます。

県立寒河江工業高等学校は、昭和38年4月の創立以来50年目を迎えました。この間、数度の学科改変を経ながら、西村山地域の発展とともに歩んできました。今日、本校が地域に信頼される学校として教育活動に取り組むことができるのは、寒河江市をはじめとする地域の方々、県当局、後援会、同窓会、PTA等のご支援・ご協力によるものであり衷心よりお礼申し上げます。

本校では、「常に前進する学校」「地域に根ざし、地域に開かれた工業高校」「一人一人の個性を生かし、将来のスペシャリストを育成する学校」を目指し教育活動に取り組んでまいりました。

校歌に使われている「あの山、この山」・「あの河、この河」にこめられている、不拔の精神や温和にして謙なる態度をもって未来に天かける「輝くエンジニア」を目指した教育活動を進めてまいりますので、これまでと同様、ご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます、ごあいさつといたします。



山形県立寒河江工業高等学校

創立50周年記念事業実行委員会 実行委員会会長 那須 稔

本日、ここに多数の来賓をお迎えし、創立50周年記念式典を挙げていただけますこと、衷心より御礼申し上げます。

昭和38年4月、当時の高度経済成長のさなかに、技術者育成と地域産業の振興を目指して創設された本校も今年で50周年の佳節を迎えます。これまで、8600名を超える卒業生を排出し、経済、教育、文化とあらゆる分野で、県内はもとより中央、国内外でも幅広く活躍されております。

現在の経済情勢は、雇用情勢、地方経済などの先行きは不透明なものとなっております。こうした大変厳しい状況の中で、いつの時代にあっても、社会の各般から求められるのは、様々な状況に対応する実践力と創造性と行動力を兼ね備えた人材を育む工業高校であり、今後さらに期待が高まる事は必至であります。

この50周年を節目に、更なる歴史と伝統を継承し、地域に根差した工業高校として益々の発展を祈念し挨拶といたします。